

**1 学校教育目標**

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 よく考え自ら学ぶ生徒  | 2 正しく判断し実行する人 |
| 3 礼儀正しく情操豊かな人 | 4 心身ともに健康な人   |

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	○ 保護者・地域に信頼され、入学したいと思う学校、入学してよかったと思う学校、卒業してもよかったと思う学校 ○ 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する学校 ○ 果敢に挑戦し、未来を切り拓く資質・能力を育成する学校
○児童・生徒像	○ 学習、学校行事、部活動等に主体的・積極的に取り組む生徒 ○ 一人一人が湊江中の代表としての自覚をもち、他を思いやる心をもち、互いに高め合う生徒 ○ 明るく、元気で、前向きに学校生活をおくる生徒
○教師像	○ 協調と協働を根底に置き、情熱と使命感に燃える教師 ○ わかる授業、魅力ある授業を追求する教師 ○ あきらめない生徒指導に徹し、信頼される教師

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

<学校の現状>  
落ち着いた学校生活を送っている。500名を超える生徒と全教職員が一体となって取り組む行事が学校生活の全般に良い影響を与えている。落ち着いた雰囲気の中で授業が行われ、学習と行事等にメリハリをつけた学校生活を送っている。知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向けて邁進している。

<前年度の成果と課題>  
成果： 本校の魅力ある教育活動である充実した学校行事、さらに教職員が一丸となって組織的に教育活動・生徒指導にあたる体制等、長い伝統に支えられた本校の特色を昨年度も継続することができた。生徒に明確な課題を与え、生徒自らがミーティングにより主体的に全力で様々な活動に参画することで、感動体験等の大きな成果をあげている。  
さらに、生徒の学力向上に向けて新たな取組が始まり、教員の意識も向上してきている。少しずつ成果も表れているところであり、この流れをさらにしっかりと定着させ、文武両道の道筋をつくりあげる基礎固めが進んでいる。

課題： 新学習指導要領完全実施前年度である本年度は、その準備を確実にを行うことが最大の課題である。研修体制を強化するとともに共通実践項目を明確にし、生徒にどのような力をつけるか、どのような授業を行うか等について理解を深め、課題解決に向けて万全を期す。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	秩序と活力のある学校生活の構築	○	○	○	○	○
3	小中連携活動の充実と教員の授業力向上	○	○	○	○	○

## 5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1									
学力向上アクションプラン									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標正答率・通過率)		実施結果 (正答率・通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
「授業が楽しい」「授業がわかりやすい」という生徒の増加 令和3年度区学力調査の結果		授業が楽しい、わかりやすいという生徒の割合 80% 年度末到達度調査正答率 60% 令和3年度区学力調査通過率 60%		授業が楽しい、わかりやすいという生徒の割合 81% 年度末到達度調査正答率 52.8% 令和3年度区学力調査通過率 未実施		・生徒アンケートにより「授業が楽しい、わかりやすい」という割合は高い。正答率は前年度よりも3%上昇したが、目標には到達できなかった。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善・授業力向上	全教科担当	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が年2回、指導案を全教員に配布して公開授業を行う。</li> <li>・授業後に管理職等と共に授業改善に向けた協議の場を設ける。</li> <li>・小中連携活動の中で授業公開・研究授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の授業アンケート年間3回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6項目のアンケートすべてについて、肯定的回答の上昇(80%以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6項目中4項目で80%を超えた。</li> <li>・特にICT機器の活用の肯定的回答が高率であった。</li> <li>・授業中の話し合いと振り返りは70～75%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいを示すこととICT機器の活用に大きな成果を得た。</li> <li>・コロナ禍により話し合いは十分ではなかった。振り返りが課題である</li> </ul>	○
2 継続	放課後補充	全学年 全生徒 英語・数学	毎日 ※行事 重点取組期間等を除く	<b>【指導体制】</b> 学年担当教員 <b>【取組内容、ねらい・目的】</b> プリント教材等を使い、生徒全員に学習内容の定着を図る。 各教科で確認テストを実施する。 <b>【使用教材】</b> プリント教材(英、数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で進度等を考慮して確認テストを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テストで目標点を超えない生徒に家庭学習課題を与える</li> <li>・上記学習課題提出率100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭課題学習の提出率は100%である。</li> <li>・今年から清掃・学活前の全員補習を実施した。落ち着いてはじめのある補充時間となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年より補充開始から終了まで、学年全体での補充学習ができた。</li> <li>・課題の大きい生徒の抜き出し等、より効果的な取組に深化させる必要がある。</li> </ul>	△
3 新規	ICT機器の活用	全学年 全生徒 5教科中心	年間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5教科を中心に、</li> <li>①教員がICT機器を活用して授業を行う。</li> <li>②生徒のICT機器使用場を広げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の授業アンケート</li> <li>②自己申告面接</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①肯定的回答80%以上</li> <li>②生徒に使用させる教員の割合上昇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①は88%であった。</li> <li>②生徒にICT機器を使わせる環境は整わず、技術科のみにとどまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度、1人1台の機器が整う。さらにG Suiteの効果的活用を目指すことが必要である。</li> </ul>	○

4 継続	サマースクール (基礎コース)	全学年 国語・数学・英語 目標値未 満 各学年約 30名程度 を募集	夏休み 期間中 の7日 各日50 分	【指導体制】 教科担任1名+学年サ ポートメンバー1名 【取組内容、ねらい・目的】 当該年度の前半期の 内容でつまずきおよ び学力調査の目標正 答率が高い問題で、本 校の生徒の達成率が 低い問題の未定着を 解消する。T1が問題 の説明を行い、T2が 机間指導をすること で解消を図る。 【使用教材】プリント教材	サマースク ール終了後、確 認テストおよ び定期テスト で確認	夏休み終了後 の確認テスト で全員の正答 率を20%の上 昇。 できなかった 場合、冬休みの 宿題でもう一 度勉強し直す。	・コロナ禍により、 夏季休業日が短縮さ れたことから、サマ ースクールを実施す ることはできなかつ た。	・今年度できなかつ たことを来年度実施 する必要がある。 ・また、勉強合宿の 形態が変わることが 予想されている。新 しいやり方に対応で きるような校内体制 の構築が課題であ る。	●
5 継続	家庭学習 の習慣化	全学年 全員 英・数	各教科 週1回 3か月 間	【取組内容、ねらい・目的】 毎日2ページの家庭 学習ノートを提出。 ・週2回分の学習内容を区 学力調査の正答率の低い 問題が定着するような内 容に限定する。	宿題提出状況 調査	全学年宿題提 出率を80%に する	・宿題の提出は、全 学年90%を超え た。	・各学年で家庭学習 の習慣化に積極的に 取り組み、成果を上 げた。 ・主体的な学習に向 けて生徒の意識を向 上させたい。	○
6 継続	1年間の 総復習	1, 2年 全員 5教科	2月 ～4月	【取組内容・ねらい・目的】 ・復習確認テスト等を行 い、学習内容の定着度を確 認し、定着度の低い問題を 授業で解説し、春休みの宿 題で確認	宿題提出状況 調査	全員の宿題提 出率を100%	・春休みに宿題を出 し提出させる。 ・100%提出させるよ うに働きかける。	・定着度の低い問題 を授業で解説してい る。しかし、学習内 容の定着はまだまだ 十分ではない。	△

<b>重点的な取組事項－2</b>		秩序と活力のある学校生活の構築		
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
成就感・達成感のある学校生活を堅持し、学校評価における肯定的評価90%以上を維持する。	「学校が楽しい」と回答する生徒の割合90%以上	・学校が楽しいという生徒は、92.3%であった。	・コロナ禍により行事等が十分に実施できなかったが、肯定的回答が多かった。	◎

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
達成感のある行事の推進	90%以上の生徒が各行事での達成感を得る。	全校生徒から自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。	・運動会、文化祭等が中止となったが他の行事で補った。	・「ビデオ・展示鑑賞会」に効果的に取り組めた。	○
人権に配慮した個別指導	いじめ質問紙調査(年3回)、個別面談(年3回)を実施する。	・得た情報をもとに、即時組織対応する。	・臨時休業により個別面談の回数は少なくなった。	・教師全員がいじめの兆候に敏感になり、素早く対応した。	○
不登校生徒への対応	不登校出現率6%以内にする。	・教育相談部会で個に応じた対応を検討し指導に生かし組織的に対応する。	・教育相談部会を中心に外部機関とも効果的に連携を図れた。不登校出現率は4.9%であった。	・家庭との連携がうまくいかないケースもあった。	△

重点的な取組事項－3 小中連携活動の充実と教員の授業力向上					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中教員の合同研修会や研究授業により、授業規律・新学習指導要領にそった授業等を含む教育活動委ついて理解を深め、授業力・生徒指導力の向上につなげる。		年間6回、全教員が参加して小中連携活動を実施 小中1回ずつ指導案検討・研究授業・研究協議を実施	・コロナ禍により実施できなかった。	・今年度実施できなかったことを再度軌道に乗せることが課題である。	▲
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
合同研修会と研究授業	年間計画により合同研修会を2回、指導案検討・研究授業を4回実施	・小中の管理職と小中連携担当者により連絡・調整を前年度に行い年間計画により実施 ・講師を招いての教科指導法や新学習指導要領等の研修も実施	・コロナ禍により実施できなかった。	・中学校も新学習指導要領が全面実施となる。教科指導と評価について学ぶ必要がある	▲
指導案の共通化	研究授業に際し、連携の視点等の共通項目を設定する	・共通項目について、前年度中に検討し、今年度より指導案に設定する ・すべての研究授業で上記の共通項目を入れた指導案を作成・配布する	・コロナ禍により実施できなかった。	・新学習指導要領も踏まえ、指導案の共通化に取り組む。	▲

## まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 学力アクションプランについて

##### 【課題】・1、2年到達度調査正答率

<国語> 1、2年共に目標値60%を超えた。現在の取組をさらに効果的にすべく工夫・実践していく。

<数学> 1年56%で正負の数の基本的な概念や文字式の表し方等に課題がある。また、課題把握能力も十分ではない。

2年52%で図形の証明や文字式による説明など読解力が必要な問題の習熟の度合いが低い。

<英語> 1年61.4%で目標値を超えた。2年は44.4%で極めて課題が大きい。基本的な単語や語句整序等の文法の知識が見に付いておらず、作文やリスニング等の能力向上も課題である。

【対策】<1年数学>授業における年度末の振り返りで「概念」の復習を実施する。演習の時間を増やして課題把握能力の向上を目指す。

<2年数学>授業で読解力が必要な問題についてヒントを与えながら自力解答させる。その後正解者が他の生徒に教える学習形態に取り組む。

<2年英語>放課後補習や長期休業中の課題を通して基本的な単語や文法事項に集中的に取り組ませる。また、授業において音読練習や発表の機会を増やしつつ、文法事項の徹底を図る。

#### イ その他

【今年度の成果】・新型コロナウイルス感染拡大が続く中、学力向上の取組や多くの学校行事が制約を受けることになった。思うような教育活動ができないことへの苛立ちもあったが、教職員の団結と献身的な努力、生徒の頑張りによってマイナス面を最小限度にとどめることができたことと考える。特に学習面で多くの指標が上昇傾向にあり学力向上の道筋が見えてきたこと、Zoom等のICT機器の活用が飛躍的に広がったこと等が成果である。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】・次年度は新学習指導要領全面実施の年となる。その準備として全体での教員研修の時間を確保し、それを受けて各教科等で指導や評価について研究・準備を行った。来年度スタートしてからも形成的評価による計画の見直し等を含め、よりよい教育活動実施に向けて取り組んでいく必要がある。また、新型コロナウイルスの感染状況が見通せない中、少しでも本校の特色ある教育活動が実現するように工夫・努力することも大きな課題である。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

コロナ禍に始まりコロナ禍に終わる1年間となってしまいました。その中でも大きなテーマは「クラスターを防ぐ」ということでした。校内での感染拡大防止に全力を尽くし、かつ少しでも教育活動を充実させるために努力して参りました。そして、その目標達成に向けて大きな力となったのが、保護者の皆様の協力でした。

家族のPCR検査等の状況を丁寧に学校にお伝えいただき、万が一に備えた対策を取っていただいたことに心より感謝申し上げます。お陰様をもちまして本校単独の長期の臨時休業等を行うこともなく、今年度の活動を終えることができました。誠にありがとうございます。

今後も学校と家庭が心をつなげて、子供たちの健全育成に努めることが肝要かと思えます。変わらぬご支援をお願い申し上げます。

### (3) その他(学校教育活動全般について)

生徒に全力で行事に取り組ませ、多くの感動体験により自己有用感や自尊感情を育てる。決して教員の押しつけではなく、生徒自らが声を上げ、学校生活の向上を図る。そして、それらの活動を支えるために、教師自らが生徒以上に汗をかく。この基本的な考え方が本校の教育活動の原点である。そして、そのような教育活動が長年にわたり大きな成果を上げ、生徒・保護者・地域の強い支持を得て継続していることが本校の伝統である。

この伝統を維持・発展し、かつ新しい時代の要請に応えるべく本校のチャレンジは続いていく。「個別最適な学び」「協働的な学び」という令和の日本型学校教育の実現も踏まえ、今後も多方面の意見を頂戴しながら精進していくことが必要である。